

人権教育だより

市川市立第三中学校
令和5年5月17日発行
(第2号)

考えよう 相手の気持ち 育てよう 思いやりの心

「いじり」について考えてみよう

友達同士などで話しているときに場を盛り上げようと「いじったり、いじられたり」した経験は誰にでもあると思います。しかし、それには相手を傷つけてしまう可能性もあります。一線を越えれば「いじめ」になっている危険性も。そんな「いじり」について、どう考えていますか？ いろいろな人たちの意見を聞いてみました。

まずは「なし」派の意見より・・・

いじりといじめ、境界はあいまいだ

いじりはなしだと思っています。私はいじりがひどくて制服にペンキを塗られたり、電車で帰るときにわたしだけ違う車両に乗らされたりしました。見た目をけなしてきたこともありました。

いじめといじりの境目が曖昧になり、嫌な思いをする人が多くなると思います。芸人や芸能人の方々はお金をもらってやっていることです。また、海外では他人の容姿などのいじりは面白いとされていません。いじりをなくすべきだと思います。

いじられている人が拒否しにくい

私は断然なし派！友人にも「クラスでいじられていてつらい」と言っている子がいますし、仮に本人たちが良くても聞いている第三者の自分がハラハラします。本人たちは楽しそうでも、周りにはいじめのように映ることもあります。

いじりは、第三者から見てもそう気持ちのいいものではないと思います。テレビでも誰かをけなしてとる笑いはナンセンス！誰も傷つかないいじりならセーフだと思います。

当事者じゃなくても不快に感じることも

私はなしだと思っています。やられた相手、または見た相手を不快にさせてしまうかもしれないからです。

お笑い芸人などはお互いがわかり合った上でやっているけど、中にはそれを見て嫌だと思っている人がいるかもしれない。友人への「いじり」のつもりでも、相手がいじめと認識することもあり得ます。

そのため、私はなしだと思っています。

対して「あり」派の意見は・・・

いじりと受け取れる範囲ならOK

私は「相手を不快な気持ちにさせないいじり」ならあり。いじりにも程度があります。親しい仲で、それがちゃんと相手に「いじり」とわかるような内容であれば、相手も不快な気持ちにならず大丈夫

だと思っています。

しかし、自分はいじったつもりで言った一言も、相手に不快な気持ちにさせてしまったら、それはいじりの限度を超えていること。あくまでもいじりは親しい仲で、かつ誤解を生まないような言い方をしないといけないと考えます。

相手も含めて楽しめるならアリ

いじりはありだと思っています。確かに、いじりによって傷ついたり、いじり自体を不快だと思う人もいたりするかもしれませんが。ただそれは「悪意のあるいじり」や「相手を傷つける言葉を使ってしまう」など配慮の足りなさから発生すると思っています。

いじりが全くないと会話が楽しくなくなってしまう。気が知れている仲のいい人に対し、それでも「十分相手を配慮して適度にする」ならやってもいいと考えます。

前向きにとらえる、受け手も寛容に

私は基本的に、いじりはありだと思っています。私は、生徒会活動などをやっていたので、選挙演説やスピーチなどの話の内容、話し方について先輩や後輩からそれぞれいじられたことがあります。不快に思ったことはありません。むしろ、「そのくらい印象に残ったのだなあ」と前向きにとらえていました。

いじる側の相手への意識はもちろん必要ですが、受け手も多少は寛容な心を持つ必要があるのではないのでしょうか。

いじり合いは「仲良しなんだな」

いじりはあってもいいと思います。私はいじる方でもいじられるw方でもないので断言はできないのですが、いじりあいの光景を見ると「仲良しなんだな」ということがわかりやすいです。

ただ、ほとんど相手をけなす言葉であるいじりや語調が強いいじりは「いじり」なのか「いじめ」なのかわからないので、何とも言えません。

では気をつけるべきことはどういうことか・・・

外見についてのいじりは避けるべき

バラエティ番組での「いじり」と友人との会話内での「いじり」は、少し違いがあると思う。お笑い芸人さんで、自分の外見を「いじって」もらうことで笑いをとっている様子をよく見る。けれど、友人の外見をいじることは、相手を傷つけることになるかもしれない。

だから、外見を「いじる」ことはよくないと思う。常識の範囲をよく考えた上で、場の雰囲気明るくするような「いじり」なら「あり」だと思う。

人の個性をおとしめるのはNG

限度があり、相手が嫌がっていないいじりなら「あり」です。言い間違いをからかいながら訂正したりする程度なら私もやっています。

けれど、容姿や性格をばかにしたり、言われて傷つけるようないじり方はご法度。マナー違反だと思っています。芸能界でも、視聴者がやりすぎと捉えるようなものはやめるべきです。